九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol. 117
2020 Jan.

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学広報室
TEL:092-802-2l30　E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

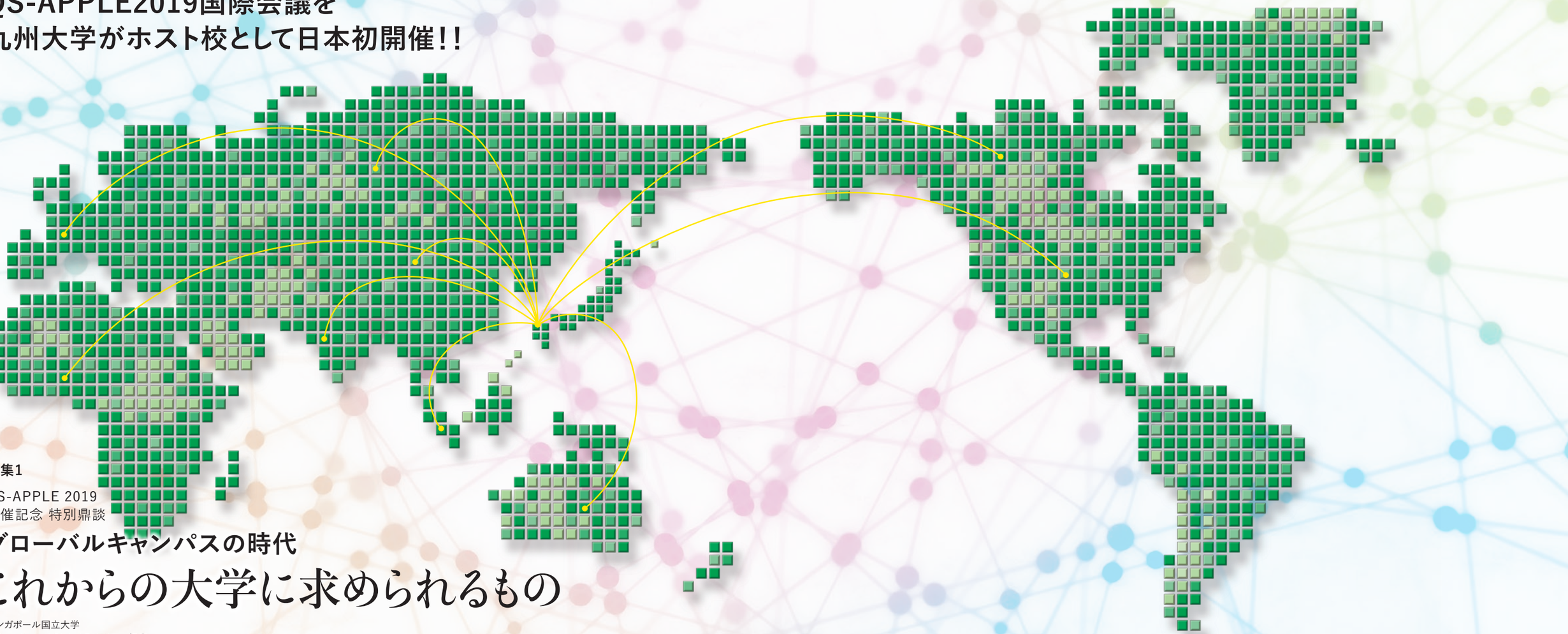
九州大学学生後援会
TEL:092-802-5968　E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会
TEL:092-802-2l58　E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

QS APPLE2019 Asia Pacific

QS-APPLE2019国際会議を 九州大学がホスト校として日本初開催!!



特集1

QS-APPLE 2019
開催記念 特別鼎談

グローバルキャンパスの時代 これからの大学に求められるもの

シンガポール国立大学
University and Global Relations 担当
アンドリュー・ウィー 副学長

×

九州大学 副理事（学生支援、男女共同参画担当）
玉田 薫 副理事

×

九州大学 副理事（国際、留学生センター担当）
渡邊 公一郎 副理事（現 副学長）

特集2

CloseUp! 九大

芸術工学部の改組

2020年、芸術工学部は 新しいデザイン教育をスタートします！

「アカデミックフェスティバル2019&ホームカミングデー」を開催！

2019（令和元）年10月19日（土）、「九州大学アカデミックフェスティバル」は同窓生や在学生保護者の方々、高校生や地域のみなさんなど約1800人の来場者でにぎわいました。

「アカデミックフェスティバル」は、九州大学を支えてくださっている方々に感謝する集いであり、九大の今を楽しく知っていただく全世代向けオープンキャンパスです。

メインイベントのトークショーは「福岡はすごい　九州はすごい　夢とイノベーションの九大へようこそ」と題して、『福岡はすごい』の著者で国際ジャーナリストの牧野洋さんをメインゲストに迎えました。坂本剛さん（ベンチャーキャピタリスト）、安達千波矢主幹教授、熊野正樹准教授（九大起業部顧問）、飯塚統さん（学生で起業）、貞松咲月さん（学生代表）と躍動感あふれる顔ぶれで、福岡、九州、そして、九州大学の大きな可能性を再発見する時間となりました。

「ホームカミングデー交歓会」、「世界に羽ばたく高校生の成果発表会」「九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞）表彰」、「九大女子卒業生に聞く! キャリア講演会」、「伊都キャンパス&中央図書館ツアー」、「チャレンジ&クリエイション」、そして、同時開催した「農学部100周年記念イベント」「工学部在学生保護者のためのオープンキャンパス」、ご参加、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。今年もぜひ九州大学の今を感じにいらしてください。

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.117 / 2020 Jan.

■編集・発行：九州大学広報室
〒819-0395福岡市西区元岡744
■TEL：092-802-2130
■FAX：092-802-2139
■E-mail：koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
■Webサイト：https://www.kyushu-u.ac.jp/
■印刷：凸版印刷株式会社
■編集協力・取材：永井直美
■取材協力：株式会社アンテリンク
■撮影：スタジオ サラ
■デザイン：株式会社ライトブレイン

◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。
◎次号は、2020年4月発行予定です。

CONTENTS

イベントレポート　02　「アカデミックフェスティバル2019&ホームカミングデー」を開催!

QS-APPLE 2019 REPORT　03　QS-APPLE2019国際会議を九州大学がホスト校として日本初開催!!

特集1 QS-APPLE 2019 開催記念 特別鼎談　05　グローバルキャンパスの時代「これからの大学に求められるもの」
シンガポール国立大学 University and Global Relations 担当 アンドリュー・ウィー 副学長
九州大学 副理事（学生支援、男女共同参画担当） 玉田 薫 副理事
九州大学 副理事（国際、留学生センター担当） 渡邊 公一郎 副理事（現 副学長）

特集2 ［ Close Up! 九大 ］　09　芸術工学部の改組「2020年、芸術工学部は新しいデザイン教育をスタートします!」

躍 動　13　水球部

九大から世界へ 世界から九大へ　15　留学生体験記 世界のキャンパス

記者会見レポート　17　●「九大バリアフリーアートプロジェクト」スタートへ

KYUDAI Special Topics　18　●令和元年度 秋季学位記授与式を挙行 令和元年度 秋季入学式・外国人短期留学プログラム開講式を挙行

KYUDAI Topics　19　さまざまな話題をご紹介／受賞のお知らせ

九州大学基金 36　24

同窓会だより　27

29　〈追悼〉中村哲特別主幹教授ご逝去によせて

Museum Report　30　「縄文時代の博多湾の自然貝類」

［ 表紙について ］

2020年最初の発刊となる今号は、昨年11月に行われた「QS-APPLE2019」特集です。九大が日本で初めてホスト校として名乗りを上げ、世界の教育に関する最新情報や取り組みを共有する場として過去最大規模のイベントとなりました。中でも、世界の大学ランキング上位に位置するシンガポール国立大学の副学長をお招きした鼎談企画では、魅力的な大学像について前向きな意見交換を行いました。

第2特集は、2020年度から改組がなされ、新たな教育をスタートする芸術工学部のご紹介。他学部との連携はもちろん、学内を飛び出し社会とも連携し、「融合」「拡張」していくデザインの取り組み内容をお楽しみください。

今号の表紙では、そんな様々な「つながり」をメインテーマにデザイン。世界地図をメインビジュアルにし、世界と“つながる”九大のグローバルさを表現しました。また背景に並ぶシナプスは、学部間連携・実社会連携などの“つながり”を表現。新たに改組される芸術工学部の学部色を基調にしました。

QS-APPLE2019 国際会議を 九州大学がホスト校として 日本初開催!!

**2019年11月26日（火）～28日（木）に、
福岡国際会議場をメイン会場として、第15回QS-APPLE 2019※1を開催。
九州大学が日本で初めてホスト校として名乗りを上げた本会議は、
世界約40カ国からの参加登録が700名を超え、過去最大規模となりました。**

「第四次産業革命と高齢化社会 ―変わりゆく大学の役割」をテーマに総会や分科会を通して各国の高等教育事情に関する最新情報、成功例や新規の取組の共有などを行いました。

初日の26日（火）は、高等教育が直面している問題について大学教員と学生が討論する「QSスクエアド・ディベート」で幕を開けました。本学からは経済学研究院の高田仁教授と農学部4年生の北川夏子さんが登壇し、「高齢化社会、ポスト産業革命4.0において大学は妥当性を維持できるか」をテーマに熱論を交わし、会場を大いに沸かせました。

午後の総会は、文部科学審議官の芦立訓氏、福岡県副知事の服部誠太郎氏、福岡市副市長の中村英一氏による来賓挨拶で始まりました。続いて「新国富指標」の提唱者のひとりとして国際的に著名な馬奈木俊介主幹教授（工学研究院）による、「高齢化社会における持続可能性に向けた取組み」についての基調講演が行われました。

その後、ホテルニューオータニ博多にて行われた各種賞の授賞式において、本学はホームページ部門で銅賞を獲得しました。

2日目、27日（水）の総会の一つである「QSダイアローグ」では、民間企業の代表者と大学の代表者の二手に分かれ、「雇用者は明日の大学卒業生に何を求めるか、また大学は明日の雇用者が何を欲していると思うか」という問いをめぐり異業種間討論を行いました。

大学サイドからは、マヒドン大学（タイ）ならびにナンヤン工科大学（シンガポール）の教員が、企業サイドからは、中山あやこ氏（三井物産人事総務部ダイバーシティ経営推進室長）、そして、長年トヨタ自動車でハイブリッド車の開発に携わり、現在はHyWealth 代表取締役を務める広瀬雄彦氏が登壇し、白熱した議論を展開しました。

最終日である28日（木）は、前日に発表されたばかりのQSアジア大学ランキングを題材としたワークショップが行われた後、本学卒業生でJAXA理事の若田光一氏が、本会議史上初の宇宙飛行士登壇として話題をさらいました。閉会後、約130名の方々が本学伊都キャンパスのキャンパスツアーに出発。4コースに分かれ、水素ステーション、最先端有機光エレクトロニクス研究センター、中央図書館、石ヶ原古墳跡展望展示室、銘板前などを見学し、最後は一見ヶ浦の夕日を見ながらそれぞれの帰路につきました。

総会に加え、3日間を通して行われた分科会では、大学の国際化、大学のブランディング、卒業生の就業力といった5つの中心テーマに基づき、80近い報告がなされました。本学からはQS-APPLE 事務局長でもある緒方一夫副学長、佐々木一成副学長、萩島理教授（総合理工学研究院）、E・ビッカーズ教授（人間環境学研究院）が登壇し、本学の最新の取組を世界中の大学関係者に向けて発信しました。

また、同時に開催された展示会では80を超える教育機関が出展し、中でも「Study in Japan 日本合同ブース」には、スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業※2採択大学を中心とする14大学が参加し、海外の高等教育機関と交流を深めました。さらに、見どころの一つとして、SGU校を一同にショーケースしたSGUパネルを設置。ロゴの蝶を配したパネルの前で記念撮影もお楽しみいただきました。

今回の会議は多くの教職員、学生が一丸となって運営にあたりました。

屏風をイメージした和テイストのデザインで統一された日本合同ブースは本学芸術工学府の学生らによるもの。受付、ブース、ツアーなどでも30名以上の学生が「学生ヘルパー」として活躍しました。

本学がホストの役割を担った本会議が成功裏に終わり、本学の国際プレゼンス向上の一助となりました。

※1 QS-APPLEとは
Quacquarelli Symonds - Asia-Pacific Professional Leaders in Education Conference and Exhibition の略称で、イギリスのQS社が主催するアジア太平洋地域の大学関係者が集う国際会議、および大学アピールのためのエキジビションです。

※2 スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業
文部科学省では、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援するため、2014年から「スーパーグローバル大学創成支援事業」を実施しており、本学はタイプA（トップ型）に採択されました。

APPLE2019 Asia Pacific 開催記念 特別鼎談

グローバルキャンパスの時代

これからの大学に求められるもの

日本初となる大学サミットQS-APPLE2019が、2019年11月26日から28日まで開催され、九州大学はホスト校を務めました。サミットでは、QSランキング上位のシンガポール国立大学のウィー副学長をお迎えし、渡邊副理事や玉田副理事とより魅力的な大学像について前向きな意見を交わしました。

※QS-APPLE（QS Asia Pacific Professional Leaders in Education）とは、イギリスの大学評価機関クアクアレリ・シモンズが主催する国際会議のひとつです。

シンガポール国立大学
（University and Global Relations 担当）

アンドリュー・ウィー 副学長

グラフェンをはじめとする二次元材料、放射光計測などを専門とする固体表面物理、ナノサイエンスの著名な研究者。ACS Nanoのアソシエイトエディターでもある。

九州大学
（学生支援、男女共同参画担当）

玉田 薫 副理事

専門は表面科学やナノサイエンス等。本学で女性2人目の主幹教授。海外での研究経験を生かし、副理事の重責にも精力的に取り組む。

九州大学
（国際、留学生センター担当）

渡邊 公一郎 副理事

地球資源科学や地質学等の様々な専門的研究に携わる。地質調査法や鉱物学の指導にも高い評価を得ている。留学生センター・センター長。

この対談は、2019年11月27日、福岡国際会議場で行われました。役職は鼎談当時のものとなります。

キャンパスのグローバル化を図る

渡邊　サミットで大学の取組を世界に発信していくことは、大学のレピュテーション・マネジメント（RM）の視点からも大きな意味を持つと思っています。

AW　おっしゃるとおりです。

渡邊　サミット会場からは少し距離がありますが、九州大学の伊都キャンパスは日本最大規模のキャンパスで、10年以上かけて昨年完成したばかりです。

玉田　科学技術交流で伊都キャンパスへご一緒しましたが、今回も行かれますか？

AW　素晴らしいキャンパスでした。今回もぜひ訪問したいです。

渡邊　ありがとうございます。
　早速ですが、NUSの魅力を伺えないでしょうか？

AW　私どもは国際都市シンガポールに立地しており、教職員の大半が優秀な外国人だということでしょうか。

渡邊　NUSでは「Yale-NUS College」の立上げにより国際化が加速されたそうですね。海外の大学と協働で教育を提供する場合、教育制度の違い等の課題はありませんか？

AW　Yale-NUS Collegeでは、2013年の第1期生受入れ以来、すでに3学年が巣立ちました。半数が留学生で、70カ国から学びに来ています。エール大学と協働して、Yale-NUSにおいて独自のカリキュラムを提供しています。
　実はNUSにも伊都キャンパスのような学園都市キャンパスがあり、寄宿制College 4ヶ所とYale-NUS Collegeに加え、大学院生の学生寮、留学生と地元学生が交流できる施設があります。

玉田　Yale-NUS Collegeの始まりはどのように？

AW　シンガポールには教養課程の大学がなかったため、先ずはアメリカの教養課程大学と交流を始めました。そうするうちに、NUSの前学長とエール大学の当時の学長の歩みよりで設立の運びとなったのです。

玉田　最近は教養課程が重視されてきていますが、当時はどうでしたか？

AW　当時は専門性が高く、クリティカル・シンキングができる人材の育成に力点が置かれていたようですが、最近では、専門教育よりコアスキルの教育を重視する向きが強いため、教養課程が見直されていますね。

大学に見るダイバーシティのかたち

玉田　キャンパスの国際化が進むことで生じる課題はありますか？

AW　大学院では留学生が多く、同じ出身国同士で集まってしまうため、彼らが地元の学生と交流できるように、例えばホームステイさせたり、レクリエーションを企画し、交流を深められるバディシステムにも登録できるようにしています。

渡邊　バディシステムは本学でもあるのですが、残念ながら興味を示す日本人学生は少ないようです。

AW　バディシステムのボランティ

鼎談後に、若山理事と共に記念撮影

シンガポール国立大学（National University of Singapore: NUS）

1905年に設立の国立総合大学。Kent Ridge、Bukit Timah、Outramの3つのキャンパスに17の学部があり、29もの研究機関を有する。海外大学との連携にも積極的で、交換留学やダブルディグリープログラムなどが盛んに行われている。今年の「QS World University Rankings」では、グローバルで11位、そしてアジア地域では1位の大学にランク付けされた。

アは多くが留学経験者ですから、日本人学生に海外留学を体験させて興味を持たせることも一案かもしれませんね。

シンガポールにおける高等教育

渡邊　シンガポールでの高等教育における、国やNUSの取組について教えてください。私は長年ダブルディグリーの開発に携わってきたのですが、九州大学では協働して学位を出したり、国際社会での通用性を教えたり、限られた修学年数で多くを教える必要があるので、様々な課題をクリアしながら取組んでいます。

AW　2006年以前は国立大学だったため、全プログラムにシンガポール政府の承認が必要でした。以降は独立したので、政府の承認は不要となり、今は学内で評議会の承認を受けています。ダブルディグリープログラムはカリキュラム委員会が監督し学内評議会が決定するため、外部の承認は不要です。課題は、必要なガイドラインを設定するものの、プログラム終了まで結果が見えないという点ですね。

意義のある海外留学

渡邊　私は若い頃にインドで1年ほど、ヒマラヤ地質学を学びました。異なる環境で様々な経験をすると、視野が大きく広がります。ですので、在学中の海外経験は九州大学でも重視しています。政府は「トビタテ」という奨学金制度を2014年からスタートしましたし、企業からの支援もあります。本学では約150人がトビタテ奨学生です。NUSでは在学中の留学をどのように捉えていますか？

AW　海外留学は学生にとって有益ですから、必修ではありませんが勧めています。九州大学との交換留学制度では、1学期間の留学で得た単位を認定していますし、夏季短期留学もあります。NUSでは学生全員の留学を目標に、低所得層の学生のための予算もしっかり確保しています。

　またオーバーシーズ・カレッジという起業家プログラムもあります。これは最長1年間、海外の12地域のスタートアップ企業でインターンを経験し、帰国後に起業することを目的にしています。現在は300人で、目標は600人です。学部生対象のインターンシッププログラムもあり、工学やコンピュータサイエンス分野の学生がシンガポールや他の国で1学期以上インターンを経験します。

魅力的な留学先とは

渡邊　NUSは交換留学先として人気があり、九州大学からは6年間で27名が留学しています。NUSの学生にも九大に来てもらっていますし、サマースクールのSIJ（Summer in Japan）にも今年は5名の学生が来ていますので、嬉しいですね。大学としては双方向での交流が理想ですから。ところで、日本の大学はどうしたら魅力的な留学先になれるでしょうか。

AW　日本はすでに留学先として人気がありますよ。日本の大学の魅力は文化と高度な技術ですから、それらのプログラムを誇る大学であれば、多くの学生が集まってくると思います。

渡邊　本校は短期プログラムで文化と技術の統合を目指しています。九州北部にはロボティックス等の技術産業もありますので、NUSの学生の目に魅力的な留学先と映れば嬉しいです。

留学する学生へ

玉田　交換留学をした学生は双方の大学の発展や国際社会への貢献という意味で大きな役割を果たしますね。ダブルディグリーも含めて、御校とは関係を深めていきたいと思っています。

AW　交換留学して終わりではなく、繋がりをキープすることが大切です。NUSでは卒業後20年は学び直しのためのコースに登録できるようになっています。

渡邊　玉田先生はNUSでのアンドリューさんとのご縁が今も続いているのですよね。

玉田　NUSの国際プログラムでアンドリューさんにお会いし、ともに学生を指導しました。その学生が博士課程で日本に留学し、私が本学で教鞭を執ってからも、NUSと九大とで若い教授陣を交換派遣しています。

AW　玉田先生はNUSと九大の架け橋ですね。

渡邊　素晴らしいご縁ですね。

　では、これから留学する学生に向けて一言お願いできますか。

AW　私自身も18歳の時、イギリスに留学しました。留学すると異なる文化や習慣の中で自立することを学びます。留学先での経験は、全て将来のキャリアの礎になると思うので、日本の学生にも海外で学んでほしいですね。

玉田　海外に出て初めて世界の広さや文化の違いが実感できると思います。おっしゃるように、海外留学は成長のための最良の方法だと思います。

渡邊　アンドリューさん、本日は有難うございました。どうぞ福岡で有意義な時間をお過ごし下さい。

留学先での経験は
将来のキャリアの
礎になります。
（ウィー副学長）

交換留学をした
卒業生は、
大学の発展や
国際社会への貢献という
意味で大きな役割を
果たします。
（玉田副理事）

大学としては
双方向での
交流が理想です。
（渡邊副理事）

芸術工学部の改組

2020年、芸術工学部は新しいデザイン教育をスタートします！

九州芸術工科大学が創立された1968年から半世紀余りを経た2020年4月、芸術工学部は、1学部5学科から1学部1学科に。レガシーを継承しつつ、新たな試みに挑戦する芸術工学部に期待してください。

普遍的な基礎造形から応用的な融合プロジェクトまで

改組後の芸術工学部に特徴的な教育の一つとして、入学したすべての学生が、あらゆるデザインを支える造形活動の基本を学ぶ「基礎造形」があります。この授業では、バウハウスに源流を持つ、これまでの芸術工学部での造形教育を踏まえた新たなモノづくりを実践します。学生がコースを超えて共に学ぶ履修形態で、木工、金工といった従来の技法とデジタルファブリケーションによる造形行為を組み合わせ、両者を滑らかに行き来するための知識・方法を学びます。（写真❶❷）

あらゆるデザインの基盤となる「基礎造形」を学ぶ一方で、異なるコースの学生たちがそれぞれの専門分野を活かしながら協働する実践的な「融合プロジェクト」も構想しています。

現5学科から、1学科5コースへ

■現在の芸術工学部
環境設計学科／工業設計学科／画像設計学科
音響設計学科／芸術情報設計学科

この「融合プロジェクト」を先取りして、現在、芸術工学図書館のリニューアルプロジェクトが進行中です。建築、グラフィック、プロダクトなど異なるデザイン分野の学生たちがチームで、調査からアイデア創出、設計に取り組み、大胆な融合施設の提案を発表しました。自分たちの図書館をユーザーである学生が自らデザインするという、芸術工学部らしい融合プロジェクトのカタチです。（写真❸❹❺）

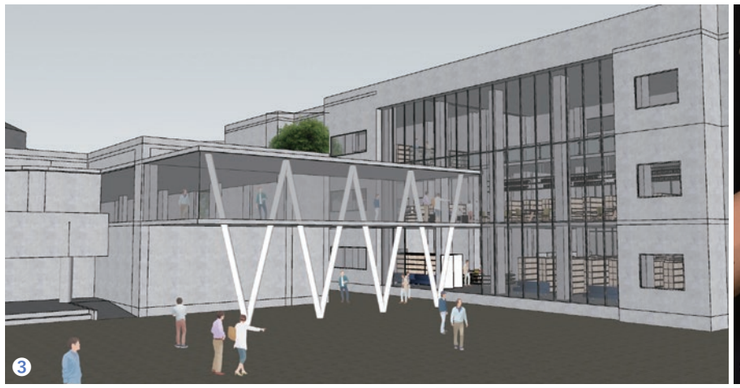
サイエンスとアート、音響と映像の融合

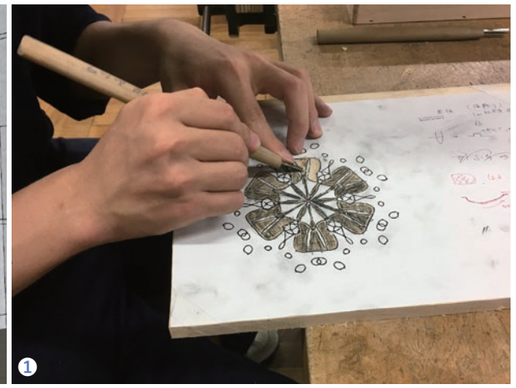
改組後は、学科がコースになることで、現在の専門分野における実験的な試みが他分野と融合してさらなる展開を見せることでしょう。現在進行中の超臨場感実現のための音響環境総合シミュレーションシステム開発は、未来の融合的な研究活動の可能性を示しています。物理的に正しい音場の再生と、芸術的な音の良さの両立を追求する研究で、音は24本のマイクで収録し、聴く人を取り囲む24台のスピーカーから再生します。このシステムでは、音だけでなくメディアデザインの研究室が収録した360度円周映像との共演を試みており、より実践的なシステムへの成長を目指しています。（写真❻❼）

学内を飛び出し社会に実装される実践的な研究活動

2019年、天神中央公園のリニューアルオープンに際し、コンテンツデザインラボが中心となり、公園内の国指定重要文化財「旧福岡県公会堂貴賓館」にプロジェクションマッピングを行い、文化財を夜空に浮かび上がらせました。野外のプロジェクションマッピングでは、実物への投影実験が本番前の1～2日と限られます。そこで映像のスケール感や視覚的な効果などを確認するため、環境設計学科が協力し、設計図等を基に忠実に再現した大型模型を製作し、時間をかけて投影実験を行いクオリティの高いプロジェクションマッピングコンテンツを制作できました。（写真❽❾）

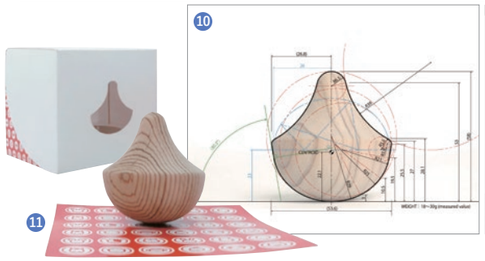
デザインに社会的な視点は欠かせません。2017年に大変な被害をもたらした九州北部豪雨災害の復興支援活動の一環として、民間企業と協同で、朝倉の杉を使った「鵜」の起き上がりこぼしをデザイン・制作。学生や学外のデザイナー、アーティストたちが起き上がりこぼしに彩色して展示販売会を開催し、被災地に支援金を送る活動なども行いました。2018年度の福岡県のふるさと納税をした方への返礼品にも採用されたほか、朝倉市で生まれた赤ちゃんの4ヵ月検診時に、出生届（控）とともに配布する取り組みもスタートしています。（写真❿⓫）





❶❷手工作とデジタルファブリケーションとの組み合わせによる造形
❸❹❺専門を超えて協同でチャレンジする融合プロジェクト
❻360度円周映像と音場再生システムとの共演で超臨場感の実現を目指す試み
❼24チャンネルのスピーカーで構成される音場再生システム
❽❾貴賓館プロジェクションマッピング＋建築模型によるシミュレーション
❿⓫九州北部豪雨災害の復興支援活動の一環で制作された「鵜」の起き上がりこぼし

〈新生〉芸術工学部の取り組み “融合するデザイン”



芸術工学部の改組

2020年、芸術工学部は新しいデザイン教育をスタートします！

コンピューターシミュレーションによって最適化された三角形の部材によって構成される構造物。内部空間の採光や陰影を意識したディテールの設計が行われた。

工学部×芸術工学部工作工房

数値制御する加工機を活用し、ストリートファニチャーを制作

芸術工学部が誇るモノづくりの実験場、工作工房が、工学部建築学科の学生達（末廣香織准教授、および黒瀬武史准教授の研究室所属）に協力して実現したプロジェクトです。パブリックスペースで使用される様々なストリートファニチャー（街路備品）を、デジタル木工加工機（Shopbot）を用いて制作。福岡市の水上公園・天神中央公園で設置実験が行われました。片付けや移動などの空間のカスタマイズを容易にするため、2.5ミリのベニヤと15ミリの高密度発砲スチロールを接着した軽量の板材で、すべてのファニチャーが構成されています。芸術工学部の工作工房に導入したCNC（コンピュータ数値制御）加工機の活用によって、少人数・短期間・高精度のプロダクト生産が実現されました。

これによって、設計、加工、検証、修正といった作品制作の一連の流れがスムーズになり、学生の制作活動や研究活動のいっそうの活性化と高度化が期待されます。

撮影：八代写真事務所

「日本空間デザイン賞」銅賞
（公共生活・コミュニケーション空間部門）受賞
設計：九州大学岩元真明研究室
設計者：岩元真明、大村美波、近藤まい子
監修：ICADA
施工：イクスワークス（担当：内山琢也）
照明デザイン：モデュレックス
（担当：佐藤政章、後藤ゆり）

新生芸術工学部のデザインの発信基地「バイオ・フードラボ」

2019年に活動をスタートした芸術工学研究院のバイオ・フードラボでは、現在取り組んでいる「次世代のデザイン教育（創造性教育）手法の開発」の一環として、生命美学、人工知能、バイオアート、人工生命、DIYバイオ、食といった知性と生命をとりまく複数の視点から、学内外の様々な研究者と共に研究活動に取り組んでいます。

また、ラボは、共用施設棟（旧厚生棟）にあった食堂跡をリノベーションして運営されています。旧学生食堂の厨房をラボに転用したインテリアは、岩元真明研究室によるデザインで、芸術工学府の修士課程学生が設計に参加しました。

撮影：八代写真事務所

〈新生〉芸術工学　部の取り組み“拡張するデザイン”

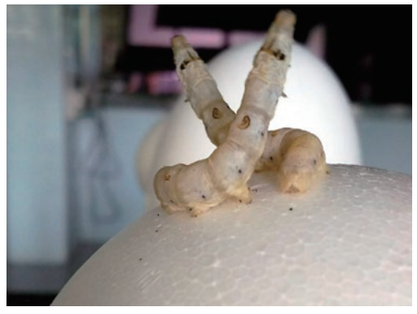
農学研究院×芸術工学研究院

植物など天然素材を活用したデザインの可能性を農学研究院と共同研究

植物の細胞壁の主成分・セルロースをナノレベルまで微細に解きほぐした「ナノセルロース」。強度は鋼鉄の5倍、重さは鋼鉄の5分の1。天然繊維なので人体にもやさしく、近年、大手企業や研究機関が競って研究を進める注目の新素材です。

九州大学芸術工学研究院では、農学研究院の近藤哲男教授が開発した竹からつくるナノセルロースに注目し、芸術工学研究院が得意とする「アイデア創造」で活用することを目的とした共同プロジェクトを進めています。

また、バイオ・フードラボを使って、九州大学大学院農学研究院の研究者と、同近藤研究室とを加えて、カイコの吐く糸を使った実験も行っています。この実験では、カイコがつくり出す糸や膜などの産物や、カイコ独自の造形プロセスを利用したデザインの可能性を探求しています。



平面吐糸実験中のカイコ

ナノセルロースでつくる土の器の試作品

躍動 Move On!

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。タイトルは取材に協力した各サークルの代表者が書いています。個性あふれる手書き文字に、サークル活動への熱意を感じます。

九州大学 水球部

水深2mで闘う 泳いで繋ぐ 繋いで泳ぐ

鍛え上げた泳ぎと技術で敵を乗り越え、球をつなぐ。水では決して消えることの無い闘志の炎を携え、彼らは今日も戦い続ける。今回の躍動では七大戦で2連覇を果たした水球部の強さに迫ります！

部活動を始めたきっかけは何ですか。

佐藤　先輩方の雰囲気がいいと思ったことです。大学で興味を持ち、見学に行って雰囲気が好きだったので入部を決めました。

渡邉　マネージャーをしたいとは思っていましたが、どの部活に入るかは決めていませんでした。いくつか見学する中で、とても明るい雰囲気が印象的だった水球部に決めました。

城　私は高校時代に水球をしており、先輩方に声をかけていただいたことがきっかけです。大学でも水球がしたかったという思いも大きいです。

活動をしていく上でのモチベーションは何ですか。

城　チームとしては全国進出、つまり七大戦優勝とインカレ※出場です。私自身、未知である、全国に行きたいという好奇心が日々の練習に繋がっていると思います。

佐藤　私は「もっと上手くなりたい」という向上心です。水球は大学から始めたのですが、中途半端ではなく、納得のできる結果を残し、引退できるようにしたいと思っています。

渡邉　マネージャーとしては、大会で選手が勝利する瞬間の感動をもう一度見たいという気持ちがモチベーションになっています。

九大水球部ならではの魅力を教えてください。

渡邉　一番の特徴は、マネージャーが練習であったことや感想を書き、選手も振り返りを書く「練習ノート」があって、部内で回していることです。交換日記のような感覚ですね。

城　書かれた感想を練習メニューにも反映します。ノートのおかげで後輩の意見も他大学のチームより取り入れられ、考えやすくなっています。

佐藤　感想を1ページ分書く人もいて、読むと楽しくなりますね。このようなコミュニケーションも縦横の仲の良さに繋がっているのかもしれません。

OB・OGさんとの繋がりはありますか。

佐藤　GWと8月の七大戦前にOB戦をして、交流しています。OB対現役生で戦い、七大戦前はそこで仕上げをします。

これからの課題やその克服法はありますか。

城　今の課題は泳力です。ボールを投げるなどの球技的な面は他のチームに劣らないのですが、ゲーム終盤の体力差が顕著に表れるのが課題です。オフシーズンを利用して強化していこうと考えています。

渡邉　筋トレやランニングではなく、水中トレーニングに重点を置いてやっていくつもりです。泳がなければ必要な体力はつかないのでたくさん泳ぎます。

今後の目標を教えてください。

城　来年の七大戦は圧倒的な点差をつけて優勝したいです。今年も優勝したので、3連覇して本当の王者になりたいと思っています。さらにインカレにも出場することを目標にしています。

佐藤　個人としては、大学から始めたので試合に出て「勝利」に貢献できるようになりたいと思います。

高校生や読者の方に向けてメッセージをお願いします。

城　部員の半分以上が初心者で、大学から始めやすく、在校生も今からでも入部しやすい部活だと思います。少しでも興味がある方は見学に来てほしいです。

佐藤　一度来てもらえれば水球部の一番の魅力である「雰囲気の良さ」が分かってもらえると思うので、遊びに来てください！

渡邉　部の目標である七大戦、そして全国区での優勝を達成して、九大を湧かせていこうと思っています。応援よろしくお願いします！

※インターカレッジ（全国大学大会）

【取材協力】

キャプテン
城 大瑛さん
（文学部3年）

主務
佐藤 敦さん
（共創学部2年）

マネージャー
渡邉 七江さん
（共創学部2年）

Focus

「七大戦」
8月中旬に開かれる大会です。来年も優勝して3連覇を狙います。

「日本学生選手権水泳競技大会水球競技　九州地区予選」
7月にある大会で、インカレの予選会です。1位通過で9月の本戦出場を目指しています。

「国公立大学選手権水球競技」
3月に全国の国公立大学が集まって戦う大会です。

「遠征」
GWと3月に遠征を行います。来年の3月は名古屋へ行きます。

Data

◎部 員 数：16名（男女比　2:1）
◎活動場所：伊都キャンパス総合体育館屋内プール、福岡高等学校屋外プール
◎活 動 日：週4日（火金土日）
◎問い合わせ先　e-mail：kyudai_waterpolo@yahoo.co.jp
Webサイト・HP：https://kyushu-wpc-2007.jimdo.com
Twitter：@KyushuWpc

この記事は広報室学生スタッフが制作しました。

（左から）
財前 祐里香
（21世紀プログラム3年）
陣内 未来（教育学部2年）
坂元 渚（農学部3年）
小野 聖文（農学部3年）

Facebookページ　https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student/

九大から世界へ 世界から九大へ

KYUDAI GLOBAL STUDENTS

世界のキャンパス

九大生が現地からレポート。海外でどんなことを学び、
どんな暮らしをしているのか。素直な言葉で語っていただきました。

授業風景

サッカーチームのみんなと

一兎だけでなく二兎や三兎を追う事のできる環境で、楽しい時間を過ごしています！

21世紀プログラム
3年
石原 慧理
（いしはら さとり）

留学国：アメリカ合衆国
留学先：イリノイ大学
アーバナシャンペーン校
工学部

さむっ！今日の気温は…マイナス5度!?

10月下旬、早くも気温が氷点下に達したイリノイ大学は緑色だったキャンパスが猛スピードで鬱金色と紅葉色に変化しています。11月には雪が降る日もあり冬の訪れを感じる、アーバナとシャンペーンというなんともお洒落な名前の二つの市にまたがるこの大学で、僕は人間工学やプロダクトデザインについて学んでいます。キャンパスは広く、寮から授業のある工学部エリアまでは歩いて25分かかりますが、地形が平地で坂がないため移動はしやすいです。イリノイ大学で開講されている多くの授業は講義形式の『レクチャー』部分と、ディスカッションや演習等を行う『ラボ』部分で構成されていて、1週間に2～3回集まります。僕が取っているどの授業についても言えることなのですが、教授の教えることに対するパッションを強く感じています。特に印象的だったのがとある講義の初回で先生が『もしこの授業がつまらない、分からないと感じたらいつでもフィードバックをしてほしいし、いつでも質問してほしい。みんながそう感じてしまうのはこちらの責任だし、良い授業ができていないって事だから！』と言った事です。ここまで言うか！とびっくりしたのと同時に、安心感もありました。

またイリノイ大学には種々の学生団体・クラブ・サークルが1800以上もあり、僕も大学のサッカーチームに所属しています！平日は授業と課題と練習、土日は近辺の州にリーグ戦をしに行くのが生活のルーティーンとなっています！

課題やサッカー、イベントなどで忙しい毎日ですが、イリノイ大学には一兎だけでなく二兎や三兎を全力で追う事のできる環境が整っているため、とっても楽しい時間を過ごしています！

University Information

イリノイ大学アーバナシャンペーン校

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校は1868年に創立されたアメリカの州立大学です。イリノイ大学システム（アーバナ・シャンペーン校、シカゴ校、スプリングフィールド校）のうちの一つであり、UIUCの略称で親しまれています。学部生・大学院生合わせて47,000人以上が在籍するアメリカでも有数の規模を誇る大学であり、世界110カ国から毎年12,000人以上の留学生が訪れる多様性溢れるキャンパスとなっています。高水準の教育を提供する事で知られ、工学部においては全米第6位にランクインしています。24人のノーベル賞受賞者や、YouTube、Paypal、Mosaicなどの企業の創設者を輩出しており、私たちの社会や生活にインパクトを与える研究成果を数多く発表し続けています。なお、2019年8月から本学とイリノイ大学アーバナシャンペーン校は、戦略的パートナーシップ校として戦略的取組を推進しています。

留学生のごはん事情！

キャンパス内にある7つの食堂はバリエーション豊富なブッフェスタイルです。日によってさまざまな国の料理が並びます！

留学生体験記

今回はケニアから来たツベイ・ヴァラリさんに、
九大の魅力や日々の過ごし方についてインタビューしました。

出身国：ケニア共和国

Tubei Valary Jepkemboi
（ツベイ・ヴァラリ ジェプケンボイ）さん
工学府修士2年

ケニアの大学で機械工学を学ぶ。2017年4月来日。本学の日本語コースで、半年間日本語を学び、受験勉強を経て、2018年4月九州大学大学院工学府に進学。2019年6月、熊本で開催された「2019年度 日本金属学会九州支部 日本鉄鋼協会九州支部 軽金属学会九州支部 合同学術講演会」で英語口頭発表 優秀賞を受賞。

留学生の仲間と
「博多どんたく」に参加しました！

休日には観光も楽しんでいます！
太宰府天満宮にも行きました。

優秀賞をいただき
光栄に思います！

Q 九大を選んだ理由は？

小さな頃から、工学技術が人間の生活にどのように役立っているのかということに興味があり、大学は機械工学を専攻しました。卒業後、工学と技術をリードする国で学びたいと考え、留学先の第一希望を日本にしました。申請した日本政府の奨学金も受給することができ、晴れて研究のため来日。九大のことを知ったのはインターネットで、教授も設備もトップクラスだと思い入学を決意しました。

Q 九大で研究していることは？

主に飛行機のエンジンに使われるチタン合金の疲労特性を研究しています。私の専門分野は、亀裂の伝播速度を低減する微小亀裂の閉口挙動の研究です。私は現在、これまで研究されてきたところから更に一歩踏み込み、材料内部で局所的に発生する異なる亀裂の閉口挙動を研究しています。そのメカニズムと特性を理解することは、安全性と経済性の向上に繋がります。

Q 学術講演会で優秀発表賞を受賞した感想は？

さまざまな分野の研究者が参加していて、皆さんプレゼンテーションがとても上手でした。その中から優秀発表賞に選んでいただいて大変光栄です。プレゼンテーション用のスライド制作にあたっては、教授に毎週見ていただき、いかにわかりやすく伝えるか細部まで工夫しました。質疑応答にも上手く答えられたので評価が高かったのだと思います。

Q 九大で学ぶ魅力は？

九州大学は自然に溢れていて、研究するにはとても恵まれた環境だと思います。また、研究室の仲間がとても協力的なのが嬉しいです。自分が言いたいことがうまく伝わらない時も一緒に考え、教えてくれます。そして、一番の魅力は研究施設が充実していて、最新の設備を利用できることです。

Q 休日の過ごし方は？

九大の留学生仲間と、太宰府やお寺を観光したりしています。佐賀のバルーンフェスタにも行きました。観光が好きで、九州以外には、大阪、京都、東京、北海道にも行きました。北海道ではスキーも体験して、とても寒かったですが楽しかったです。ケニアでは経験できません（笑）。泳ぐのも好きで夏は糸島の海岸で、冬は大学のプールでよく泳いでいます。

Q 将来の夢や目標は？

修士課程を修了したら、博士課程に進みたいと思っています。その後は母国の大学で教えながら研究を続けたいです。日本は文献上で勉強するだけでなく、革新的な実験を行いながら研究を進めます。ケニアの学生にも、そうした進んだ研究プロセスを経験してもらいたいですね。将来は教授になって、私の学んだ知識を若い世代に伝えたいと思っています。

伊都キャンパスの壁面、バス停、トイレがミュージアムに！

「九大バリアフリーアートプロジェクト」スタートへ

キャンパスライフ・健康支援センター　特任助教　**羽野 暁**（はのさとし）
芸術工学研究院　准教授　**鵜飼 哲矢**（うかいてつや）

九州大学は障害者支援推進専門委員会（委員長：丸野理事・副学長）を設け、障害がある者に対する支援を行っていますが、さらなるバリアフリー環境の充実に向けて、平成30年度より、同委員会のもとに「九州大学キャンパスバリアフリー検討研究会」（以下、研究会）を発足しました。医学、心理学、工学、デザインの専門家が領域を跨いで連携し、学内体制や環境づくりを担う大学職員とともに、障害当事者の目線に立ってバリアの解消に挑む三位一体のチームです。研究会は、日々新しいバリアフリー環境づくりに取り組んでいます。

記者会見の様子（上：羽野特任助教　下：鵜飼准教授）

障害者の才能に気付き、肌で感じるキャンパスミュージアム

研究会は、障害に対する相互理解の環境づくりを目的とした『障害者支援啓発プロジェクト～九大バリアフリーアートプロジェクト～』を開始しました。このプロジェクトは、九大トイレミュージアム、九大バスミュージアム、九大ウォールミュージアムの3つのキャンパスミュージアムプロジェクトから成り、キャンパス内の壁面、バス停、トイレの空間に地域の障害者アーティストが創作した作品を展示するものです。学生や教職員、来学者など学内外の多くのキャンパス利用者に、身近に障害者アートに触れる機会を提供することで、障害者の才能を知り、相互理解を深めてもらうことを期待しています。

展示イメージ

企業や市民が応援スポンサーに

本プロジェクトは、企業や市民がスポンサーになり、地域の障害者を応援する産・学・地域連携プロジェクトです。九州大学基金を通して企業や市民の皆さまからの寄附を受け、地域の障害者アーティストが創作した作品をキャンパス内に大きく展示します。展示場所には作品の紹介と啓発プロジェクトの趣旨を添え、作品の鑑賞を通して意見を表現できる公開の場をつくります。

学生や教職員のみならず、多様な来学者が訪れる大学キャンパスはまさに社会の縮図です。本プロジェクトを通して、障害者の作品に触れた多くの人が新しい価値観に気付き、共感し、共生社会の実現に向けた風土が醸成されることを期待しています。

羽野先生から一言

大学における障害者支援は、単に福祉的側面の充実にとどまらず、多様な思考の交流によるイノベーションの可能性を有しています。障害者と共に学び、共に考え、共に生活することは、新たな気づきや発想を与える機会となるでしょう。私たちは、障害の有無にかかわらず、全ての学生と教職員が共に大きなイノベーションを創造する、そのような共生社会のモデルとなる未来型キャンパスを目指しています。

問い合わせ先　九州大学キャンパスバリアフリー検討研究会事務局
TEL：092−802−3436

令和元年度秋季学位記授与式を挙行

2019年9月25日（水）、伊都キャンパスの椎木講堂で、令和元年度秋季学位記授与式を挙行し、学士課程61名、修士課程160名、博士課程211名の計432名が新たに本学の学位を授与されました。

式は本年4月以降に学位取得の要件を満たした卒業生・修了生が出席し、留学生修了者の増加や大学の国際化を踏まえ、使用言語は英語で行いました。

久保総長は各課程の代表者に学位記を授与した後、総長告辞で、はなむけの言葉として3つのC（Challenge. Change. Creation.）を卒業生・修了生に贈るとともに、九州大学で学んだことを活かして、夢を掴み未来を切り開いてほしいと告辞を結びました。

また、卒業生・修了生を代表して、理学府博士課程のARA CHOさんが、「成功は決定的ではなく、失敗は致命的ではない。大切なのは続ける勇気だ」というウィンストン・チャーチルの言葉を引用しながら、挑戦を諦めない心を答辞として述べました。

厳格な雰囲気の中、卒業生・修了生の新たな旅立ちを祝う印象的な式典となりました。

新たな時代を
切り拓く！
九大生432名の
旅立ち

KYUDAI Special TOPICS

令和元年度秋季入学式・外国人短期留学プログラム開講式を挙行

2019年10月1日（火）、伊都キャンパスの椎木講堂で、令和元年度秋季入学式・外国人短期留学プログラム開講式を挙行し、学部生（共創学部、学士課程国際コース）37名、修士課程生141名、博士課程生161名、JTW（外国人短期留学コース）およびJLCC（日本語・日本文化研修コース）の60名の計399名が、新入生として入学しました。

10月入学者の約9割が外国人留学生であるため、式はすべて英語で執り行いました。

まず始めに、久保総長より、「九州大学で自身の専門を深めつつ、日本語や日本文化など日本のことも知っていただきたい。また、皆さんが九州大学で有意義な学生生活を送り、各々の目的を達成されることを心から願っています。」と歓迎の言葉を贈りました。

続いて、5名の来賓紹介があり、代表して在福岡ベトナム社会主義共和国総領事館のVu Bihn総領事から祝辞をいただきました。

また、最後に、新入生を代表して、工学部のAli Kevin Manuelさん（インドネシア）、数理学府のGraiff Sebastian（アルゼンチン）、JTWのKernchen Gesineさん（ドイツ）の3名から、歓迎への感謝の意や学生生活の抱負を交えた挨拶が行われ、式は盛会のうちに幕を閉じました。

次世代の
国際社会の
リーダーとなる
399名が集結

TOPICS 01

「九州大学キャッチコピー」決定！

2019年6月13日から8月15日までの期間、本学はそのブランドイメージを広くアピールし、国際的な認知度を高めるために「九州大学キャッチコピー」を募集しました。

締め切りまでに応募があった752作品から、理事や教職員、学生を交えて複数回の学内審査を経て最優秀1作品および優秀2作品を選定し、最終的に九州大学キャッチコピーを以下のとおり決定しました。

日本語：世界へ飛躍する九大新世紀

英語 ：Leap into the Next

また2019年12月2日（月）には、本学伊都キャンパスの椎木講堂において、選定された最優秀作品と優秀作品の表彰式を挙行しました。

表彰式では久保総長から各受賞者へ表彰状と賞品目録の授与、記念撮影があり、その後久保総長、山縣理事、清須美副理事との懇談の時間がありました。

懇談では、各受賞者から作品のコンセプトや九州大学への想いなどを語っていただいたり、総長や理事、副理事からもにこやかに声をかけられるなど、終始和やかな雰囲気で執り行われました。

最優秀作品：

動き出す。九大新世紀。

九州大学生物資源環境科学府
修士1年 **弘胤 智美**さん

優秀作品：

広く修め、深く資する。

九州大学
サイバーセキュリティセンター
金子 晃介准教授

Open Mind, Creative Spirit

九州大学SHAREオフィス
廣瀬 武志教授

弘胤智美さん

金子晃介准教授

廣瀬武志教授

TOPICS 02

九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞））の表彰

本賞は九州大学で、優れた研究成果を挙げた若手女性研究者および女子大学院生を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者を育てること、そして、本学の多様性をさらに向上させることを目指し、創設されました。

なお、男女共同参画推進室長在任中に本賞の創設に尽力され、その後も基金への支援など多大な貢献を頂きました、元理事・副学長、元名誉教授の故伊藤早苗氏の御功績に敬意を表し、本賞の呼称を九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞）といたしました。

今年度は、若手女性研究者部門13名、女子大学院生部門17名の推薦があり、厳正な審査の結果、それぞれの部門から最優秀賞1名、優秀賞2名ずつの合計6名が受賞しました。

2019年10月19日（土）開催の「九州大学アカデミックフェスティバル2019」で表彰式が執り行われました。なお、本賞は、「女性研究者活躍促進プロジェクト基金」の寄附金により運営しております。

久保総長と受賞者の記念撮影

【若手女性研究者部門】
最優秀賞
三浦 静（生体防御医学研究所 特任助教）
優秀賞
髙木 留美（人文科学研究院 助教）、
山内 由紀子（システム情報科学研究院 准教授）

【女子大学院生部門】
最優秀賞
松下 祐子（理学府博士後期課程3年）
優秀賞
岡本 舞子（法学府博士後期課程3年）、
石井 千晴（薬学府博士後期課程2年）

TOPICS 03

令和元年度九州大学安全の日講演会を開催

2019年10月24日（木）に、令和元年度九州大学安全の日講演会を開催しました。

本学では、2016年9月に屋久島における授業実施期間中に本学学生が亡くなった事故を受け、10月1日を「九州大学安全の日」と制定しており、安全の日の取組の一環として同講演会は開催されました。

当日は、伊都キャンパスのセンター2号館講義室をメイン会場とし、病院、大橋、筑紫の各キャンパス会場へ遠隔講義システムを使ってライブ配信を行い、併せて約180名が参加しました。

講演会に先立ち、前記、屋久島での野外授業中の事故、2017年10月に発生した探検部合宿中の事故、およびこれまで課外活動等で亡くなられた方々に黙祷を捧げた後、久保総長から「過去の事故の記憶を決して風化させることなく、教育研究活動における安全の確保、再発防止策に万全を期していく」旨の開会挨拶がありました。

その後、第1部として、細川由梨専任講師（早稲田大学スポーツ科学学術院）から「スポーツ現場における緊急対応の考え方 −Emergency Action Planの実践−」と題し、アスレティックトレーナーとしての経験に基づく緊急時の対応に関する講演がありました。第2部として、永田高志助教（医学研究院）から「災害・事故時の救命救急のあり方」と題し、国内外の災害・事故現場での従事経験に基づいた講演および心肺蘇生法等の実演があり、本学構成員の安全意識の向上が図られました。

本学においては、今回の講演会のような安全管理や安全教育の専門家等による啓発活動を毎年開催し、諸活動における安全の確保、事故等の発生防止に繋がっていくよう今後も取り組んでいきます。

講演会の様子

久保総長

細川専任講師

永田助教と実演の様子

受賞のお知らせ

2019年ノーベル賞

【化学賞】

吉野　彰

九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター
訪問教授　※現 九州大学栄誉教授
旭化成株式会社
名誉フェロー
名城大学 大学院理工学研究科
教授
技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター
理事長

総長コメント

吉野彰九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター訪問教授、旭化成名誉フェローが、2019年のノーベル化学賞を受賞されたことを、九州大学関係者として大変光栄に思いますとともに、九州大学を代表して吉野先生に心からお祝いを申し上げます。

吉野先生は、「リチウムイオン二次電池」の開発と実用化という、社会を変革する技術革新を先導されました。この待ち望まれた二次電池の高容量化や小型・軽量化の実現は、携帯電話やノートＰＣなどの携帯型電子機器の普及等を加速し、私達の生活様式を大きく変化させました。加えて、エコカーやスマートグリッドなど省エネルギー・環境負荷低減技術への応用、更には深海、宇宙開発への利用など、“人類に最大の利益をもたらす発明”と呼べるものではないでしょうか。

また、このたびの吉野先生の受賞は、研究者の自由闊達な研究活動の大切さがあらためて示されたものであり、我が国全体の研究者を勇気づけるものであるとともに、研究者のみならず、相次ぐ自然災害からの復興に向けて尽力されている方々を含め、我が国の国民の皆様にとっても大きな励みになったのではないかと思います。

九州大学にとっても、今回の受賞は大変感慨深いものがあります。あらためて、我が国の研究活動がますます発展することを願っております。

令和元年10月9日

九州大学総長　久保 千春

TOPICS 04 公開講座「ヴォーゲル先生とアジアの未来を語ろう」を開催

2019年11月16日（土）、本学伊都キャンパスの椎木講堂で地球社会統合科学府および共創学部主催の公開講座「ヴォーゲル先生とアジアの未来を語ろう」を開催しました。

公開講座は中野等地球社会統合科学府長の挨拶で開会し、ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル氏による「永遠の隣人：日中の歴史から考えるアジアの未来」のタイトルで基調講演が行われました。引き続いて、ヴォーゲル氏、前JICA理事長で現在は政策研究大学院大学学長の田中明彦氏、テレビなどのメディアで活躍される中国研究家の津上俊哉氏にご参加いただき、「日中関係と今後の世界情勢」のテーマでパネル・ディスカッションが行われたのち、施光恒教授（地球社会統合科学府）が閉会の挨拶を述べ、盛況のうちに幕を閉じました。

参加者は一般の方々のほか、学内の教職員、学生など総勢200名にのぼりました。

ヴォーゲル氏は講演のなかで、日中両国は数々の問題を抱えながらも、隣国として必ず共存の道を探していけると訴えられ、パネル・ディスカッション後に設けられた質疑応答の時間では多くの参加者から質問があり、日中関係への関心の高さがうかがわれました。

また、公開講座に先立ち、地球社会統合科学府において学生主体の書評会も開催されました。

本書評会のため事前に学生が主体となってヴォーゲル氏の新著『日中関係史』（邦訳：益尾知佐子）の読み合わせを行い、討論の論点や質問を整理、16日（土）午前中の書評会の場では本人を目の前に直接批評を行いました。このような体験は学生にとって批判的思考力を鍛える良い機会となりました。

基調講演の様子（エズラ・F・ヴォーゲル氏）

パネル・ディスカッションの様子
左から田中明彦氏、エズラ・F・ヴォーゲル氏、津上俊哉氏

学生主体で開催された書評会の様子

TOPICS 05 文学部紀要『史淵』の電子化を完了し、90年分を全公開

本学人文科学研究院紀要『史淵』のバックナンバーを全点デジタル化し、九州大学学術情報リポジトリ（QIR）で公開しました。

『史淵』は、昭和4（1929）年に九州史学会の学会誌として創刊され、現在は本学大学院人文科学研究院により年1回刊行されている紀要です。90年におよぶ長い歴史をもち、主に歴史学、地理学、考古学研究に関わる数多くの学内成果論文が掲載されています。

今回公開したコンテンツは昭和4（1929）年の創刊号から平成11（1999）年の第136号までの71年分で、掲載論文は703点にのぼります。従来から公開していた第137号から最新号までを併せた全掲載論文は867点におよびます。

なお、記念すべき創刊号掲載論文は次の通りです。

●長沼賢海「鐵砲の傳來に就いて」
●中山平次郎「九州に於ける銅鐸」
●玉泉大梁「室町時代に於ける貨幣の流通状態」
●重松俊章「支那古代の物價調節策について」

公開作業にあたっては、人文科学研究院および本学「ワークスタディプログラム」の支援を受けました。引き続き同院紀要『哲學年報』、『文學研究』の公開に向けて鋭意作業中です。

［『史淵』創刊号表紙］［『史淵』創刊号発刊の辞］

受賞のお知らせ

令和元年 秋の叙勲

【教育研究功労】〈瑞宝中綬章〉
中山 正敏　九州大学名誉教授（理）

【看護業務功労】〈瑞宝単光章〉
三池 優起子　元九州大学病院看護部看護師長

第78回西日本文化賞

西日本新聞社が西日本地域の文化の発展と向上に貢献された方の業績を顕彰する目的で昭和15（1940）年に創設され、今年で78回を迎えます。

【学術文化部門】
藤木 幸夫　九州大学名誉教授（理）

【奨励賞（学術文化部門）】
竹村 俊彦　応用力学研究所　主幹教授

大学発ベンチャー表彰2019

国立研究開発法人　新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）が2014年度に開始した制度で、大学等の成果を活用して起業したベンチャーのうち、今後の活躍が期待される優れた大学発ベンチャーを表彰するとともに、特にその成長に寄与した大学や企業などを表彰するものです。2社の成長を支援した大学・企業と教員2名も表彰されました。

【経済産業大臣賞】
株式会社Kyulux
〈支援大学〉
安達 千波矢
最先端有機光エレクトロニクス研究センター センター長

【科学技術振興機構理事長賞】
エディットフォース株式会社
〈支援大学〉
中村 崇裕　農学研究院　准教授

第5回図書館レファレンス大賞

図書館レファレンス大賞は、全館種の図書館が利用者のニーズに応じて情報を提供する「レファレンスサービス」の優れた事例を表彰するものです。

【図書館振興財団賞】
九州大学附属図書館
「Web学習ガイド「Cute Guides」による課題解決支援」

第1回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が推進する女性研究者の活躍のための取組として、今年度から創設された持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者、および女性研究者の活躍を推進している機関を表彰する賞です。

【輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン アシダ賞）】
九州大学
本学が2009年に他大学に先駆けて立ち上げた「女性枠設定による教員採用・養成システム」、2017年の配偶者帯同雇用制度の創設、女性枠教員の論文業績分析による女性研究者の研究力に関する無意識のバイアスの是正、国際会議での発信などが評価され受賞しました。

九州大学基金
―未来を切り拓くリーダーの育成―

36

椎木講堂

寄附者ご芳名

九州大学基金の趣旨にご賛同いただき、多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。
本号では、令和元年7月21日から令和元年10月17日までに寄附申し込みいただいた皆様のご芳名（五十音順・敬称略）を掲載させていただきます。今後とも九州大学基金をよろしくお願い申し上げます。

～支援者の皆様～

企業・団体など

アビスパ福岡
高田　剛
糸島市観光協会
アロマの工房 香の宮
糸島ゲストハウス前原宿ことのは
櫻井神社
ふくおか縁結び倶楽部
糸島市商工会女性部
楢崎自動車
今宿校区自治協議会
渡辺　勝利
イリスロード伊都商店連合会
株式会社やました
周船寺校区自治協議会
波多江　孝
元岡校区自治協議会
松浦　喬
おおたデンタルクリニック
株式会社環境エイジェンシー
九州大学帆友会
株式会社サンメディア
株式会社ジェイ・サイエンス西日本
博多南ビル内科クリニック
福岡海外株式会社
株式会社福岡銀行
ゆずの木 －お気軽古着物・レンタル着物－
（計19企業・団体）

個人

青木　智佐
赤尾　矢八郎
足立　尚美
阿部　亨
新井　悦郎
有川　修平
安藤　大輔
石井　明
石井　将
石田　明彦
石橋　洋平
一丸　雅憲
出田　収
伊藤　純江
伊藤　敏男
稲積　信雄
稲葉　誠治
井野　忠彦
井上　研太郎
井上　憲一
今村　佳之
上田　はるみ
上野　修
上野　仁敬
上野　しのぶ
上野　美貴
内田　亘
梅原　敏男
梅本　竜兵
江島　政貴
衛藤　英二
衛藤　和彦
江藤　正義
榎本　幸太郎
大石　聡一郎
大石　昌尚
大田　明登
大庭　幸子
大原　未流斗
岡村　宣和
岡安　崇史
小川　千恵
尾崎　浩己
小野　久美子
小野　浩二
甲斐　義孝
加藤　富民雄
金山　真吾
金子　たかね
樺島　義幸
樺山　哲郎
釜　みや子
亀井　吉次
河原畑　勇
喜久村　徳清
城戸　峰子
木下　勝弘
木原　節子
木村　妙子
金　聖浩
金城　信博
工藤　國夫
久保　秀郎
窪田　百笑
久保田　盛利
栗田　稔
桑畑　克彦
河野　光子
古賀　典篤
古賀　洋子
小島　憲二
小津和　健吾
小寺　隆
五島　久
後藤　正恒
後藤　正利
後藤　玲子
後藤　博紀
小柳　満寛
権藤　通弘
近藤　聡
坂本　敬子
櫻井　龍子
作花　勇輝
佐藤　憲一
佐野　哲也
塩足　至弘
塩塚　賢輔
重富　英城
重廣　亜希
篠崎　仁美
篠原　昭
柴山　雅洋
渋谷　定則
下條　英毅
下田　忠久
下山　亜紀
進藤　清見
杉谷　俊拓
杉野　和記
杉野　裕明
鈴木　友和
關　幸徳
宗　重成
曽我部　幸雄
園田　新一
Ta Viet Ton
大間　裕行
髙木　利憲
鷹巣　紗弓
高田　淑
高野　和良
高橋　正哲
高原　博二
高原　裕介
武内　真美子
田島　松二
田代　正一
立川　昭二郎
田中　和教
田中　節男
田中　暢
田中　良奈
田中　正彦
田中　陽子
田邊　裕一郎
谷口　智鶴子
田麥　一藏
田村　和也
張　宇馳
謝　家暉
塚田　真一
辻　貴子
辻本　章
辻本　育子
土田　博
筒井　勝美
堤　大輔
鶴崎　新一郎
手島　るり
藤　栄
徳永　幸彦
徳山　世雄
友田　信太郎
鳥越　達也
内藤　崇徳
永島　知子
中野　克己
中野　健二郎
中野　信義
中俣　博
中溝　幸夫
中村　伸子
名嘉村　博
中山　絵華
中山　安博
中山　義崇
成清　勝利
成清　耕一
成松　将俊
西山　和宏
西山　晴幸
根本　道也
野崎　修一
野田　篤史
野間　有里
野村　崇代
葉石　晃
箱田　篤子
橋詰　隆志
橋本　喜一
長谷　浩
畑田　研司
花井　泰三
馬場　崇
浜地　和夫
濱地　要
濱中　大介
原川　篤
原田　哲也
原槙　孝志
春田　徹
半田　義文
東　慶太
久野　孝子
日高　嘉郎
平井　良昌
平石　満
平田　慶介
平舘　俊太郎
平野　千恵美
平山　賢太郎
福田　公成
福田　知
福田　正伸
譜久村　清江

福元 ゆみ
藤井 徳夫
藤澤 貴宏
藤田 善行
藤野 泰寛
藤本 真理人
藤原 京子
古川 貞二郎
古屋 茂樹
細井 浩志
本多 典子
正木 健太郎
松浦 傑
松尾 和正
松下 武史
松谷 聡
丸木 三知
三島 博美
三嶋 美済
溝川 貴邦
光岡 由美子
水辺 紘治
南野 森
三宅 淳一
宮里 大
宮下 直人
武藤 康弘
村上 香
村田 裕治
守口 三郎
森山 健二
安尾 しのぶ
柳武 佳代子
山形 悦透
山口 真
山口 泰久
山田 真一郎
大和 右二
山部 鉄朗
山本 裕介
横尾 崇裕
横田 修
横田 拓也
横山 祐三
吉田 眞一
吉田 良子
吉野 卿子
吉住 公洋
吉岡 寛昭
吉村 和彦
吉村 敦
與田 哲也
笠 正光
ほか 匿名希望 123名
（計372名）

●お問い合わせ 九州大学総務部同窓生・基金課
〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL：092-802-2150
E-mail：k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp
Webサイト：https://kikin.kyushu-u.ac.jp/

令和元年度「山川賞授賞式」を挙行

令和元年11月6日（水）、本学伊都キャンパスの椎木講堂において、九州大学基金支援助成事業「山川賞」の令和元年度受賞者に対する授賞式が挙行されました。平成24年度の創設から8年目、「令和」元号になって初めての山川賞は、2年次生42名、3年次生32名、計74名の申請があり、審査の結果、2年次生7名、3年次生3名の計10名が受賞しました。

授賞式には、留学中の2名を除く2年次生6名、3年次生2名の計8名が出席し、本学からは久保総長、丸野理事・副学長、井上理事・副学長、荒殿理事・副学長、安浦理事・副学長、石橋理事・副学長、内藤理事・事務局長、山縣理事が出席しました。はじめに、久保総長から各受賞者に山川賞記念メダル盾の授与があり、その後、久保総長からの挨拶、受賞者と総長、理事との懇談が行われました。懇談では、各受賞者が受賞の喜びや今後の抱負を語る姿に、総長、理事からも自然と笑みがこぼれ、終始和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。

最後に、受賞者は山川健次郎初代総長胸像前にて記念撮影を行いました。

山川健次郎初代総長［肖像画］の教育理念等を説明する久保総長（中央）

山川健次郎初代総長胸像前で受賞者記念写真

山川賞

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する、人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、次代を担う若者を育てることを目的とした事業です。受賞者には学業を助成する奨学金として年間100万円が学部の最短修業年限まで給付されます。受賞した学生は自らの独創的な研究や海外留学等を積極的に行い、将来、社会の様々な分野で指導的な役割を果たし、広く世界で活躍することを目指し、日々活動に取り組んでいます。

九大会員の皆様へ ～特典のご案内～

太宰府天満宮

太宰府天満宮　Webサイト
https://www.dazaifutenmangu.or.jp/

会員特典
- 宝物殿 拝観料：団体料金を適用
  一般（おとな）300円［通常400円］
  大学生・高校生100円［通常200円］
  中学生・小学生50円［通常100円］
- 菅公歴史館 拝観料：団体料金を適用
  一般（おとな）150円［通常200円］
  大学生・高校生75円［通常150円］
  中学生・小学生50円［通常100円］

特典有効範囲 九大会員本人及びその同伴者

利用条件と注意事項
※窓口で九大会員証を提示し、特典を利用する旨を申し出てください。
※同伴者の方で学生証等の提示が求められた時は、ご提示をお願いいたします。

太宰府天満宮　宝物殿

太宰府天満宮　菅公歴史館

「糸島カキ」牡蠣小屋

糸島漁業協同組合 JF糸島カキ養殖漁業部会
糸島カキ　牡蠣小屋（20店舗） Webサイト
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/
九大基金　糸島カキ　検索

会員特典❶ テーブル代（ガス使用代・炭代）300円が無料
特典有効範囲 九大会員本人及びその同伴者
利用可能店舗（19店舗）
福吉漁港（糸島市二条福井）：カキのますだ、伸栄丸/カキの佐々木、飛龍丸/カキの阿部、白山丸/梅本のカキ
加布里漁港（糸島市加布里）：住吉丸
船越漁港（糸島市志摩船越）：豊漁丸、ケンちゃんカキ、千龍丸
岐志漁港（糸島市志摩岐志）：恵比須丸、冨士丸、徳栄丸、のぶりん、中宮丸、大栄丸、高栄丸、豊久丸、大黒丸、日進丸、旭星/活かきの岡﨑

例年10月下旬から糸島に牡蠣小屋がオープン

ブランド牡蠣「糸島カキ」

会員特典❷ かきめし（大）をサービス
特典有効範囲 九大会員本人
利用可能店舗（1店舗） 船越漁港（糸島市志摩船越）：カキハウスもっくん

自然豊かな海と山に恵まれた糸島

利用条件と注意事項（共通）
※来店時に九大会員証を提示し、特典を利用する旨を申し出てください。
※利用時は、店舗のルール（持ち込みや予約等）および従業員からの注意事項等をお守りください
※飲酒運転撲滅宣言「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない」そして「見逃さない」

九大会員特典の内容や料金は、予告なく変更になる場合がございますので予めご了承ください。
各特典については、ご利用条件などをご確認のうえご利用ください。このほかにも多くの特典をご用意していますので、ぜひご入会いただきますようお願い申し上げます。

九州大学基金・九大会員に関するお問い合わせはこちら

九州大学総務部同窓生・基金課
〒819-0395 福岡市西区元岡744　TEL:092-802-2150
E-mail：k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学基金Webサイト
九州大学基金　検索
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/

東海九大会

令和元年10月4日(金)、刈谷市のデンソー「ディースクエア」にて令和最初の東海九大会が開催され、今回が第28回になりました。

講演会では、久保千春総長から「九州大学の近況と取組み」という演題でお話をいただきました。ドローンカメラによって撮影された伊都キャンパスの近況の紹介や「躍進百大」をスローガンに世界のトップ100の大学に躍進するという総長の熱い想いを拝聴することができました。

懇親会は高江暁副会長(昭和56年工学部卒)の挨拶に続いて中川淳監事(昭和51年法学部卒)の乾杯で始まりました。

総合司会は毎年恒例の広重敦理事(昭和60年工学部卒)が務め、会場を大いに盛り上げ楽しく進行いたしました。新卒者の紹介および挨拶では大きな志を持った新卒者の将来の意気込みを聞くことができました。

引き続いて「お楽しみ抽選会」があり、九州大学賞やトヨタ賞、デンソー賞、サントリー賞など豪華景品が全員に当たりました。

最後に九州大学学生歌「松原に」を斉唱して、佐原良雄幹事(昭和56年法学部卒)の万歳三唱で締めくくりました。

久保総長講演会

久保総長を中心に全員集合

新卒者挨拶

東海九大会幹事　藤原達彦(平成19年・経済学部卒)
〈連絡先〉東海九大会事務局　時高豊彦(昭和46年工学部卒)　E-mail:tokitaka@mb.ccnw.ne.jp

令和元年度文学部同窓会総会

文学部同窓会総会は2019年10月5日(土)に福岡市美術館にて、56名の参加者を得て開催されました。総会は倉富史枝会長(昭和55年卒)と佐伯弘次文学部長・名誉会長(昭和53年卒)の挨拶で始まり、2018年度の事業や決算などの報告と2019年度の事業計画などの提案が行われ、いずれも承認されました。文学部同窓会では、在校生の研究活動を支援するため、同窓会奨学会奨励金の制度を設けており、今年度は優秀研究賞が7名に、優秀活動奨励賞が1団体に授与され、受賞者から研究・活動計画の発表がありました。

今年度の講演会は、折田悦郎会員から「旧六本松キャンパスの歴史」、後小路雅弘会員から「福岡市美術館が生まれた頃」という題目でお話をいただきました。興味深い内容と多くの懐かしい写真を通して、20代から80代の参加者が、六本松と大濠周辺のそれぞれの思い出を再確認する機会をもつことができたと思います。その後、福岡市美術館の忠あゆみ様から「ギュースターヴ・モロ展」についてご解説をいただき、同展を鑑賞いたしました。

懇親会は美術館内のプルヌスで開催され、美味しいフランス料理を頂きながら、楽しい歓談の時を過ごすことができました。

優秀研究賞の授与式

懇親会(プルヌスにて)

文学部同窓会副会長　遠城明雄(平成元年・文学研究科修了)
〈連絡先〉文学部同窓会事務局　TEL:092-807-4066　E-mail:bundo@lit.kyushu-u.ac.jp

同窓会に行こう

九州大学同窓会連合会は、部局別同窓会と地域別同窓会の連合体組織として、同窓会の横断的な活動や組織作りを支援し、同窓生相互の交流と親睦を深めるとともに、九州大学と同窓生の情報交換や連携協力を緊密にし、九州大学の発展と学術の振興に貢献することを目的として活動しています。

会員同窓会からのお知らせ

人間環境学府同窓会
〈連絡先〉事務局
Email:jdou@arch.kyushu-u.ac.jp

2019年人間環境学府同窓会は設立より10年を迎えました。
今後も専門分野を超えた交流とつながりを目指し、皆様のご入会をお待ちしています。

数理学府同窓会
〈連絡先〉庶務幹事　大津幸男
Tel: 092-802-4446
Email: otsu@math.kyushu-u.ac.jp

大学院数理学府同窓会は平成6年の大学院数理学研究科の独立に伴い平成9年に設立され、既に20年以上がたちます。現在は会報と名簿の発行を定期的に行っています。

総合理工学府同窓会
〈連絡先〉事務局　伊藤
Tel: 092-583-7021
Fax: 092-583-7060

総合理工学研究科設立前夜から40余年の歴史を垣間見ることができる同窓会名簿(総理工同窓会会員のみ購入可)の最新版を2017年11月に発行しております。

システム情報科学府同窓会
〈連絡先〉事務局　林
Tel: 092-802-2728　Fax: 092-802-2712
Email: Koo8100@jimu.kyushu-u.ac.jp

本会は主に、在学生や卒業生が参加するセミナー等への支援、最近のトピックを分かりやすくまとめたニュースレターの発行、修了する大学院生の中で在学中に顕著な業績をあげた者を対象に表彰を毎年行っております。
https://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/14

同窓会の開催情報はこちらへ!　**九州大学同窓会連合会ウェブサイト**
http://doso-rengo.jimu.kyushu-u.ac.jp/
九州大学同窓会連合会　検索

東京同窓会 Summer Festa (2019年8月31日)

令和最初の大懇親会開催!

今年(2019年)は令和最初の会となるので、企画チームの皆で相談し、〝令和は出会い、令和はチャンス!〟をテーマに決め、このテーマに沿って会全体を構成していきました。また、今年は東京同窓会の設立15周年にもあたるため、これも意識して、冒頭に流すムービーを作成しました。会半ばのクイズは〝元号、ふしぎ発見!〟と称し、我々の地元福岡、又、幅広い参加者の年齢層を考慮し、昭和・平成・令和にちなむ問題を披露しました。自画自賛になってしまいますが、この企画が大好評で、又、豪華賞品もご提供頂いたので大盛り上がりとなりました。

会の後半は音楽のショー。わずか2時間余の時間ですが、盛沢山のイベントを実行するため、その企画には3ヶ月半、16回の会合を重ねました。

一緒にこの企画を推進してくれたメンバーには大いに感謝したいと思います。また、例年のことですが、この東京同窓会の懇親会〝Summer Festa〟には芸術工学部出身の方々のご尽力が大きく、会場の横断幕・ムービー・クイズ、どれをとっても彼等の協力なしには、もはや成り立ちません。来年もまた8月最終土曜日に開催予定ですが、オリンピック・パラリンピックの時期に当たるため、企画を今から思案している状況です。

クイズ企画〝元号、ふしぎ発見!〟

Summer Festa会場の様子

東京同窓会事務局長　楢崎光雄(昭和46年・法学部卒)　〈連絡先〉E-mail:kyudaitokyo@gmail.com

追悼　中村哲特別主幹教授ご逝去によせて

アフガニスタンの復興のために尽力してこられた中村哲先生がこの度亡くなられましたことは、大学としても大きな誇りである柱を失ってしまい、痛恨の極みであります。誠に残念でなりません。

中村哲先生は一九七三年三月に本学医学部をご卒業され、一九八四年にペシャワール会現地代表となられて以来、パキスタンやアフガニスタンにて医療活動に従事してこられました。その傍ら、二〇〇〇年にアフガニスタンが大干ばつに見舞われた際、用水路が必要なことを痛感され、二〇〇三年からは農村復興のための水利事業を続けてこられ、砂漠に緑が蘇りました。そしてなによりも人の和を大切にされ、現地の人々との強い信頼のもと復興事業に取り組んでこられました。

本学においては二〇一四年の特別主幹教授就任以来、毎年本学学生・教職員そして市民の皆様に対しこれまでの取組や貴重な経験を穏やかにそして力強くご講演いただきました。「飢えと渇きは薬では治せない」とも語られ、その成し遂げた事業の壮大さに強い感銘を受けました。

これまでの経験を通して感じた思いを、率直に、穏やかに、丁寧に語られる姿に、先生の温かで誠実な人柄や実行力を感じていました。

先生の考え方や行動は、私だけでなく多くの人々の指針になっています。先生のなされたことや信念は強く私たちの心に残り、そのご遺志は多くの人々に引き継がれていくことと思います。大学として、先生のご遺志を若い世代にもしっかりと伝えてまいります。

中村哲先生のご逝去を悼み心よりお悔やみ申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

九州大学総長　久保 千春

縄文時代の博多湾の自然貝類

九州大学総合研究博物館　助教　伊藤泰弘

化石というと、たいてい恐竜だとかアンモナイトなどが固い石になったものを連想されると思います。化石とは、太古の生物の遺骸や痕跡が砂や泥などの中に埋もれ、地層の中に残されたものをいいます。ところで、どのぐらい古いと化石というのでしょうか。実のところ、古生物学的にも何年前というような厳密な定義はありません。一般的にはだいたい1万年より古いものが化石と呼ばれ、それより新しいものは半化石などと呼ばれています。

さて、写真は、九州大学総合研究博物館の地史古生物分野で保管している貝の標本です。1970年代に福岡市中央区天神地下街の工事で地下を掘った際「博多湾シルト層」という地層から採集されました。博多湾シルト層は海底で自然に堆積した地層です。地質学の年代区分では、完新世と呼ばれる一番新しい時代のものです。これらの標本は、大規模な工事などでかなり深く地下を掘ったときにしか得られない、大変貴重なものです。

これらの貝は、いつごろ生きていたのでしょうか。詳しい年代はきちんと分析しなければなりませんが、およそ7000年～3000年前だと思われます。古生物学的には半化石ということになります。この時代は人間の歴史でいうと、ちょうど縄文時代にあたります。縄文時代の自然の貝と言った方が馴染みがあるかもしれません。

これらの貝は現在も生きている種類で、穏やかな内湾の海底に生息しています。天神の地下深くから発見されたことは、縄文時代その場所が海の底だったことを示しています。また、現在の博多湾は志賀島を先端に海の中道の砂州によって玄界灘の荒波から防がれた内湾ですが、縄文時代も同じように穏やかだったことを教えてくれます。

およそ7000年前の縄文時代は、今より海面が2～3mも高く、日本各地で海水が陸地の奥まで侵入し複雑な入り江をもった海岸線ができました。これを「縄文海進」といいます。天神でも縄文時代の海岸線はもっと陸側に入り込んでいました。その後、海面は現在の高さまで低下していき、入り江は陸からの土砂で埋められ、時代を経て陸地になってきました。そのため、天神の地下を深く掘ると、海だったときの堆積物が現れます。言いかえると、地下を深く掘ったときにしか、縄文時代の堆積物を見ることができないのです。

写真のような貝は、私たちが今も浜辺で見る貝と変わりありません。貝塚遺跡から発見された貝は文化財になりますが、自然貝層の貝は打ち捨てられがちです。しかし、これらの貝は、縄文時代の自然環境を知る大きな手がかりとなります。人間活動による貝塚からの貝と比較することで、当時の海域環境と漁労生活とのかかわりを知ることのできる非常に重要な資料なのです。